

大学と地域の橋渡し拠点——コミュニティケア教育研究センター長に就いて

2021年9月1

日付で当センター長に就任しました荻野大助（おぎのだいすけ）と申します。教養教育部教授との兼任となります。この度、任期途中ながら重責を担うことになり、身の引き締まる思いを感じておりますが、全力で努力する所存でございます。「道北地域研究所」と

「地域交流センター」を統合し2016年度からスタートした「コミュニティケア教育研究センター」は、地域との連携協働により、保健医療福祉、保育、教育、産業振興ならびに地域活性化等に関する課題発見および解決に取り組み、地域貢献に資する教育・研究の充実・発展を図ること」を

目的とし、初代結城佳子教授（看護学科、2代目関朋昭教授（教養教育部）をセンター長として地域課題の解決に積極的に取り組んでまいりました。

当センターでは、業務を効率よく運営するために、専任の事務職員を1名配置しています。また、本学教職員により構成される企画運営会議、評議員会に加え、地域の保健医療福祉・保育・教育・産業等関係者による連携推進協議会を設置し、連携基盤の整備・充実に向けた協議を行っています。

近年はCovid-19（新型コロナウイルス）による活動の制限があり、例年出来ていたことが思うようにできない状況だったように思われます。ワクチン接種が始まり明るい兆しが見えてくることを切望しながら、スタッフ一同アイデアを出し合い、できることをしっかり行っ

て、大学と地域の橋渡し拠点として当センターの役割を果たしていきたいと考えております。皆さま方のご理解とご協力を賜れると幸いです。コミュニティケア教育研究センター長

荻野大助

